

2018年(平成30年)

第123号

(3月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

国会議員を講師に憲法学習会を開催 ～グループワークで理解を深める～

2月18日、参議院議員の藤末健三氏による「憲法学習会」を開催し、およそ130名の会員が参加。テーマ別グループワークで研鑽し合いました。国会では憲法改正の議論が行われており、改正に向けた動きがある中、私たちはどのように考え、どのように行動すればいいのかを学ぶ機会として今回の学習会が企画されました。

藤末氏は講演の中で、先の戦争で多くの犠牲があり、その経験から平和憲法を作った経緯を説明。世界に一つしかない戦争放棄の憲法であることを法華経の衣裏繫珠(えりけいじゅ)の譬えに当てはめ、衣の中に込められた宝こそ平和憲法であって、国民はそれに気付かなければならないと述べました。また現憲法には侵略戦争をするための戦力は持たないとあり、自衛のための戦力は持てる」と解説し、自衛隊の存在も現状のままの条文で問題ないと述べました。そして、道は最初からあるのではなく、多くの人々が歩くからこそ道になるのであり、「希望」も同じであって多くの人々が希望を抱くことで実現すると述べ、開祖さまの平和への道を求めていきたいと締めくくられました。



約1時間の講演のあと、テーマ別グループワークで理解を深めました。テーマは①憲法とは、②日本の憲法は誰が作ったのか、③海外での武力行使は必要か、④国民の過半数が賛成すれば憲法は変えられるのか、⑤自衛隊は国を守るものか戦争に参加するものか、⑥外国との友好はどうやって築くのか、⑦世界のための日本の役割は何か、の7つに分かれ、熱心に意見交換をし、時には藤末氏本人にもグループに入ってもらい詳細な内容を教えて頂きました。

その後の質疑応答で、議員と仲良くするにはどうしたらいいかとの問いに、藤末氏は一党一派に属さずいろんな議員の意見を聞いてほしいと回答。そして平和のために「軍備」が必要という議員、平和のために「対話」が必要という議員を見極め、こちらの願いを伝えることが大切と説明しました。

また国民投票の行われ方や平和憲法について他の議員自身の理解度、世界平和について何が出来るのかなどの質問があり、藤末氏はすべてに仏性があるとする仏教的思想を広げなければならないと結びました。

最後に佐藤教会長から平和境実現のためにもこの平和憲法の勉強を続けていく必要があり、今回参加出来なかった方にも内容を伝え、法華経精神に基づいた地域、



社会、国家、世界を作り上げていきたいと思います。と精進を促されました。

世界中から注目された平昌(ピョンチャン)オリンピックが幕を閉じました。日本選手が冬季大会で過去最高のメダルを獲得し、国内も大きく盛り上がりました▼初出場の十代の若い選手から、何大会も出場したレジェンドまで、多くの人が素晴らしい競技を披露してくれました。たとえメダルに届かなくても、多くの人に感動を与えたことは確かです▼一番印象に残ったのは、女子スピードスケートで優勝した小平奈緒選手が、2位になった韓国の李相花選手と抱き合ったシーンです。競い合った相手の気持ちを思いやる心がとても美しく映りました▼競争相手のことをライバルと言いますが、ラテン語の「小川」からきており、「川を共同で使う者」という意味だそうです。同僚・仲間という意味で用いられていました▼勝ち負けを決めるのではなく、互いが肩を並べて成長していくように、人と人、国と国の関係も良きライバルであってほしいものだと思います。

時事刻々

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～地域の人びとと共に、幸せに～ 亀岡支部男子部長 大川友久

教団創立 80 周年の月にこのようにお役をいただきましたこと、まことにありがとうございます。

私ごとではございますが今月 22 日に今住んでいる桂のアパートから伏見の借家へ引っ越します。2016 年 11 月に結婚し、実家暮らしから今のアパート暮らしになり 1 年 4 カ月。そこで特に変わったなと思うのが近隣住民との関わりがほぼ無くなったということでした。隣の部屋の方ですら挨拶はしますが名前を知っているぐらいで家族構成であったり顔もはっきりとは覚えてない程度のものでした。そんな中でも生活はできてしまうのですが、地域性といいますかそのような環境に少し寂しさを感じてはいました。反面、お陰様で新婚生活を満喫しながら 2 人の時間を大切にできたのは、それはそれで良かったのかなと思います。

夫婦で向き合い新たに家庭を築き、まず自分の家庭を整える期間を頂戴し、これからは今までと違い地域での関わりなしには生活できない環境に変わります。そんな中、今月の会長先生のご法話は「地域の人びとと共に、幸せに」ということで、正直なところ私にとってタイムリーなものでした。

これから私たち夫婦の新たな一歩になるわけですが、佼成会会員として何をすべきか行動の指針になるものを求めた時、開祖さまは「身辺のことをおろそかにせず、まず目の前の 1 人を救い、おのれの家庭を調べ、地域社会の浄土化へ進むという、着実な歩みも忘れてはならない」とおっしゃっていました。

世界平和、世界人類の救済というとても大きな目標があったとしても目の前の 1 つ 1 つのことを自分本位でなく人さまの幸せを願い動かさせていただく一歩ずつの前進が重要なのだと受け取らせて頂きました。大事を成就させるためには小事をおろそかにしてはいけないということを仕事の中で教えてもらいましたがまさにソレだと思えます。

そうなると本当にやるのが山のように見えてきて現

実から目を背けて逃げ出したくもなりそうな心の弱い私ですが、一気に片付けようとしたり、先ばかりを気にするから大変なだけで 1 つ 1 つを片付けてみれば案外そう難しくないことの方が多いような気がします。ここで難しいのがどの順番で片付けていくかにあるかだと思います。一般的に考えるならやりやすいものからとか、すぐに終わるものからと自身にとって楽な方法で自分優先になりがちかもしれません。ですが私は佼成会会員なわけで、仏様の視点から物事を考えるべきです。みんなの幸せを願ったうえで順番を考えてみると自然と人さまのためにと自分のことを一旦置いて行動できると思います。

まだまだ意識しないとそこまでできませんが、まず家庭で、その次に地域で、そして支部で教会でと実践を積み重ねて自分を高めていきたいです。逆に教会で教えてもらったことをお手取りで支部に、普段の関わりから地域へ、また家庭へというサイクルも意識してやっていきたいです。

会長先生は「家族がみんな仲よく、それぞれが敬いと親愛で結ばれて、心安らいている。“わが家”をそういう家庭にすることが、地域全体の幸せの始発点になるのです。」

また「家庭の幸せを始発点として、地域のみなが仲良く過ごすことは、大きな平和への一歩でもあるのです。」とご指導下さいました。

平和というと漠然と大きな話に思えて身近ではなかったのですが、こうやって順を追ってわかりやすく教えて頂くとなんだか私でもできそうな気がする嬉しい気持ちになりました。

ずっと夫婦仲良く明るく優しく温もりある家庭、自慢のわが家を築き、地域の方々とのふれあいから平和に貢献していきたいのと、同時にそこで得た喜びを支部の仲間と共有して温もりの輪を広げていこうと思います。

合掌

宇治茶でほっこり ～美味しいお茶の淹れ方教室～

2 月 18 日、NPO 法人 和東ティー・フレンズから講師を招き「美味しいお茶の淹れ方教室」を開催し、会員 30 名が参加しました。

講師の日本茶インストラクターから、急須で飲むお茶の香り・味・のど越し・水色の楽しさを教えてもらい、ゆとりや癒しを感じることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。



節分会 ～戌戌（つちのえ・いぬ）九紫火星の年のはじまり～

2月3日、京都教会法座席において節分会が行われ、多くの会員が参拝しました。

1部式典では読経供養、来賓挨拶、年男・福娘・厄年の方の紹介、佐藤教会長の言葉と続きました。来賓挨拶は国会議員から憲法改正についての意見を述べられ、国民の意識向上が不可欠であると結ばれました。

年男・福娘・厄年の方は69名おられ、一人ひとり各支部長さんから紹介されると会場からは大きな拍手が沸き上がりました。



佐藤教会長は言葉の中で、心の中の鬼を追い出すのではなく、鬼がいるお陰で制御する心が養われ、時折、鬼が出てきてもその都度仏さまの教えで心を整えられ

ると、すべてを活かすはたらきを話されました。また節分を期に戌戌（つちのえ・いぬ）九紫火星の年廻りになることを説明。ものごとが明らかになる、成すべきことが成せる、頭が冴える、自立するなどの特徴を述べられました。そして憲法改正の国民投票が実施されるかもしれないと、各自一人ひとりがしっかりと大事な判断をさせて頂くようにと促されました。また今年は教団創立80周年になることにふれ、佼成会は生きとし生けるものすべてが尊いとしている教団だと述べ、頂いた御供物はご宝前にお供えしてから頂く習慣が身に付いており、それは自分だけが頂くのではなく人さまにもお分けしましょうと喜び事は分けると増えると説明し、菩薩のはたらきを皆で行いましょう結ばれました。

2部式典ではお琴演奏、歌・ダンス披露、太鼓演奏のあと、恒例の豆まきが行われ年男・福娘・厄年の方が法座席いっぱいに撒かれました。

2部式典後は1月に行われた寒中読誦修行での福引があり、当選が発表されると会場からは大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみをもちましょう。

【食堂（しょくどう）】

仏教では「じきどう」と読む。寺院の中で、僧たちが食事をするお堂のこと。齋堂（さいどう）ともいう。

一般には、料理を出す店やレストラン、家の中で食事をする部屋、ダイニングルームの意味があるが、仏教の場合は後者に近い。

また寺院の食堂は、食事のときも修行が続けられる

場所。作法は厳しく、話をするのはもちろん、器のふれ合う音、ものを噛む音、汁をすする音も禁じられる。



（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- 桜など春の花の絵や写真
- 我が家のひなまつりの様子（ひなかざりなど）

宗教から見た平和『現代世界と平和』～庭野開祖の法話より～

世界平和は人間の心の改造なくしては実現しないと言われます。しかし、私たちは心の改造は困難だとか、不可能だとか考えがちです。ところが庭野開祖は、正しい宗教が広がれば、人々の心は変わっていき、ほんとうの「世界平和」がこの世に打ち立てられる、ということを感じておられました。今回も私たちの心の切り替えることが平和への道につながるということを感じていきます。(編集部)

◆平和への道(3)

完全な平和は遥か彼方にあるのかもしれませんが、決して夢の世界なのではなく、そこに達する階段は現実に掛かっているのです。気の遠くなるような無数の会談でしようけれども、とにかくそれを一段上って行けば、いつかは必ず目的地に到達するのです。ここで忘れてはならないことが二つあります。一つは、人間の幸せというものは、究極の目的地(完全平和の世界)へ到達して初めて得られるものではなく、そこへ到達する無数の階段の一段上がれば一段だけの幸せが得られ、二段上がれば二段だけの幸せが得られるということです。このことを見忘れていたからこそ、目的のあまりの遠さに茫然となり、一步を踏み出すことさえしなくなるのです。もう一つは、“平和云々”という名まえのついた仕事は、いわば大伽藍のてっぺんの尖塔のようなものであって、朝日・夕日に輝いて人目につきやすいものですが、もし、その下にある大伽藍や、また、その大伽藍を支える土台石がなければ、一吹き風にも耐えられない脆いものであります。立正佼成会においても、会長の私独りが世界平和のための仕事をしているわけではありません。大伽藍の柱の一本一本であり、土台石の一つ一つである会員さんの、一日一日の信仰活動のすべてが世界平和のための働きなのです。煩惱に苦しんでいる人を救い、修羅の巷に沈潜している人の心を変えずに、どうして世の中が平和になりましょうか。

ユネスコ憲章の前文に、「戦争は人の心から起こる。ゆえに平和は人の心の上に築かれねばならぬ」とあります。まさにそのとおりであり、人の心の中の修羅を修め、平らかな、明るい心に変えることによって、平和は実現するのです。

人間はそれぞれ違った役目をもってこの世に生まれてきているものなのですが、その役目を完全に果たすことによって得られる結果は、本質的にはまったく平等なのであります。その「平等な結果」とは何でしょうか。これには二つの面があります。一つは個人的な面、いま一つは社会的な面です。

まず個人的な面から説明しますと、人間が自分のこの世における存在価値と言いますか、役目と言いますか、そうしたもぢまえのものを真剣に追及し、思う存分に果たしていきまると、その努力と実践の中で、人格というものが次第に磨かれていきます。だんだんに磨かれていって、ついに行きついた境地が現代語で言えば、人格の完成であり、仏教語で言えば、成仏にほかならないのです。ですから、どんなに性格が違い、体力が違い、才能が違い、職業・地位が違って、自分のもぢまえを完全に発揮していきさえすれば、ひとり一人の人間としての価値を完成(成仏)するという点においては、まったく平等なのです。

次に社会的な面における結果ですが、私どもが自分自身のもぢまえ・存在価値・役目というものを真剣に追求し、思う存分に果たしていきまると、ひとりひとりのそうした働きが渾然と溶け合って、大きな調和を生み、世の中全体がスムーズに働き、生き生きと進展していくようになります。これがとりもなおさず、社会の平和であり、仏教語で言えば、常寂光土の姿であります。ですから、社会における役割がどんなに違って、とにかく自分の役割を完遂していきさえすれば、平和の実現(寂光土の顕現)の担い手となるという点においては、まったく平等なのであります。

どうか、このことを深く認識し、自分のこの世における存在の尊さを、改めてしみじみと思い直して欲しいのであります。

3～4月の主な教会行事

3月1日(木)	9:00～	朔日参り
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
5日(月)	9:00～	教団創立80周年記念式典
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(木)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
4月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
8日(日)	9:00～	降誕会・花まつり
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

80年前、立正佼成会が誕生しました。昭和13年は、日本が戦争へ向かって歩いており、その中にあって、現実に人を救い世を立て直したいとの熱意から教勢は目を見張るものがあったと聞いています。決して会を大きくしたいというのではなく、純粹に菩薩行に徹しておられた結果と思われる。両祖の方便がまさに時代が求めていたに違いありません。そして現代。世界は大きく変わり、日本の置かれた立場も大きく変わりました。私たちはこの京都で真摯に仏道を歩み、人さまに寄り添える者でありたいと思います。